

# 持続可能な未来社会を創造する主体を育成する家庭科の構想

## 家庭科で目指す資質・能力

社会の持続可能な発展と個人の健康や生活の質の向上が求められる未来社会において、それぞれが協力・協働や健康や快適、安全などの視点から物事を考えることが重要になる。そこで家庭科では、そのような視点を基に、生活に関する課題を解決するために、実践的・体験的活動を通して家庭生活に関わりの深い人・もの・時間・金銭などの要素との関連を考えながら、自分の生活に必要な知識や技能を見いだすことができる資質・能力を重視する。

具体的には以下の3つの資質・能力の育成を目指す。

- 生活に関する課題を設定し、解決するために実践的・体験的活動を通して、家庭生活に関わりの深い人・もの・時間・金銭などの要素との関連を考えながら、自分の生活に必要な知識や技能を見いだすことができる。
  - 【主に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に関わる創造性】
- 生活に関する課題を解決するために、実践的・体験的活動を通して、他者と協力したり、助言し合ったりして多様な考えを認め合うことができる。
  - 【主に「学びに向かう力・人間性等」に関わる協働性】
- 家族の一員として生活をよりよくしていくために、生活に関する課題の解決に取り組み、考えを更新することができる。
  - 【主に「学びに向かう力・人間性等」に関わる省察性】

## 生活の営みに係る見方・考え方

生活の営みに係る見方・考え方とは、

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること

である。生活の営みに係る見方・考え方を子供が自在に働かせたり、組み合わせたりして、深い学びへと繋げるためには、これらの4つの視点の言葉を具体化し、整理する必要があると考えた(表)。

【表 4つの視点の整理】

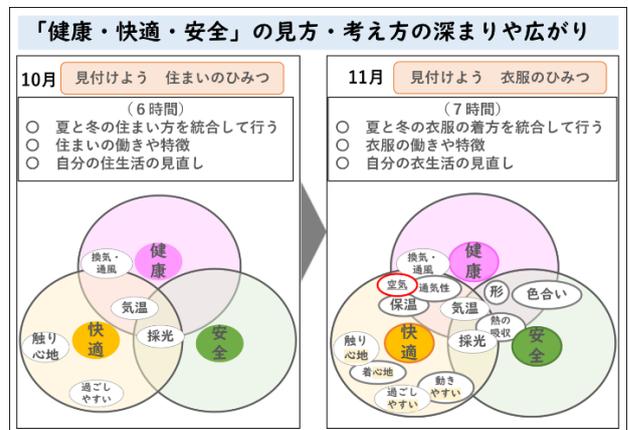
協力・協働	家族との触れあいや地域の人との関わりを大切にし、家庭や地域に進んで関わること
健康・快適・安全	主に衣食住に関わる働きや役割、特徴、身の危険や怪我から身を守ること
生活文化の継承・創造	日本人に古くから親しまれる生活文化の大切さに気付くこと
持続可能な社会の構築	資源を効果的に活用したり、次世代への環境を考慮したりしながら、身近な環境をよりよくしようとすること

## 具体的構想

### 1 学びの文脈を生み出すカリキュラム構想

家庭科の内容については、それぞれの題材が子供にとっての実生活に即し、学びの必然性が見えるように、社会的・実用的側面を重視する。また、複数の内容が相互に関連付くようにカリキュラムを構想していく。そこで、2年間のカリキュラムを通して、見方・考え方が働き、資質・能力の発揮につながるような題材の配列にする必要がある。

例えば、図1に示すように「健康・快適・安全」という見方・考え方を、関連付けて題材を配列することで、知識を深めたり、広げたりすることができるようにして、カリキュラムを構想していく。



【図1 家庭科のカリキュラムの一例(5年 住と衣の関連)】

### 2 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、豊かにする題材構成

左表で具体化した見方・考え方を働かせて、資質・能力を発揮するには、実践を現実にある状況に近づけた学びにする必要がある。そのために、子供にとっての切実さと本質的な学習内容に沿うようなパフォーマンス課題を位置づけた題材構成にする。そのための条件として、①現実的な生活課題の設定になっていること、②題材で重視したい見方・考え方を働かせて課題解決できること、③他の領域や場面との関連を生み出すものであることの3つが考えられる(図2)。



【図2 題材構成の例(5年 見付けよう 衣服の秘密)】

## 具体的な実践事例

### 第5学年「見付けよう 衣服のひみつ」

#### 1 本題材における家庭科の見方・考え方

「B衣食住の生活」の領域において、重視される家庭科の見方・考え方は、衣食住に係る生活事象を、「健康・快適・安全」の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することである。特に本題材においては、暑さや寒さを防ぎ、身を守るなどの健康、動きやすくするために形や素材を工夫するなどの快適、身体を清潔に保ったり、怪我から守ったりするなどの安全などのように3つの視点を重視していくようにした。このことは、様々な場面や状況に応じて衣服の着方を工夫していくという点で、家庭科で目指す創造性の発揮につながっていく。

#### 2 本題材で重視する学びの文脈

本題材では、衣服の働きと形や色、布の特徴を理解し、日常生活の様々な場面で衣服の着方を工夫して、生活をよりよくしていこうとする態度を育てることをねらいとした。そこで、社会的・実用的側面における学びの文脈を重視した。具体的には、子供にとって身近な制服や体操服などの学校指定服を教材として扱い、学習課題を設定したり、衣服の形や色、布の特徴を実際に試着、実験して追究したりできるようにした。また、現実的な生活課題となるよう、12月に実際に行われる長距離を歩く冬の遠足（遠行会）をテーマに設定し、衣服の選択と着用の仕方を健康、快適、安全の視点から議論し、より実践的な知へと深めることができるようにしていくような文脈をつくっていった。

#### 3 授業の実際

題材の導入段階においては、現段階の衣服の着方に対する考え方を捉え、学習課題を見いだすことをねらいとした。そこで、普段の衣服の選び方を実践しながら話し合ったり、制服のよさや課題、疑問について話し合ったりする場を設定した（資料1）。

T：みなさんが学校で着用している制服のよさや課題から疑問に思うことはありますか。

C1：制服は少しずつ改良されているようだけれど、大きく変わっていないのは、伝統だけではなく衣服を作る人の工夫やこだわりがあるのかな。

C2：衣服にはどんな特徴があるのか知ることができると、着方の仕方をもっと工夫できそうだね。

#### 【資料1 制服のよさや課題を基にした話し合い】

C2の下線部のように、子供に身近な制服を教材として扱うことで学習課題を子供自ら設定することができた。

題材の展開段階においては、衣服の働きや形や色、布の特徴を捉えることができることをねらいとした。そのために制服や体操服、スモッグや給食エプロンなどの学校指定服を比較しながら試着する活動を設定した。また、多様な素材を提示し、保温性や吸水性、伸縮性、通気性、速乾性

などを調べる活動を設定した（資料2）。



#### 【資料2 形や色、布の素材を比較実験して話し合う様子】

ここでは、実際に見て触れたり、実験したりすることを通して衣服には形や色、布の素材に特徴があることを捉え、働きを理解することができていた。

そして、終末段階の本時（6/7時）では、衣服の働きと形や色、布の特徴を基に、健康・快適・安全の視点からどのように着用すればよいか理解することができることをねらいとした。そこで、全員に共通する現実的な課題である冬の遠足（遠行会）をテーマに設定した。そして、展開段階で追究してきたことを生かしながら、衣服の着方の工夫点やそれぞれの考え方の共通点について話し合う活動を行った。



#### 【資料3 自分の課題を解決する工夫を話し合う様子】

子供は、資料3に示すように、自分の課題に応じた工夫について話し合い、友達同士で他にどんなよさがあるのか見付けることができていた。

C1：ちょうどよい暖かさになるようにしたり、着心地がよいものにしていたりしているところは共通しています。

C2：住まいも衣服の学習も過ごしやすさや動きやすさなど快適という考え方は一緒だと思います。

#### 【資料4 共通点を見いだす子供の発言】

また、C1のように、それぞれが見付けた工夫には共通点があることや、C2のように、前題材の住生活の学習と関連付け、住まい方と衣服の着方の工夫の仕方は、共通した見方・考え方があるということを見いだした発言をすることができていた。

#### 4 考察

資料3のような姿は、健康・快適・安全の見方・考え方を働かせながら新たな衣服とのかかわりを見いだす創造性が発揮された姿であると考えられる。これは、実践的・体験的に追究し、パフォーマンス課題を実践的に解決できるようにした題材の構成が有効であったと考える。

家庭科部 奥村杏奈